
IBM Websphere Application Server 8.5 for IBM i 7.3 導入検証

最新の IBM i 7.3 環境で IBM WebSphere Application Server 8.5 (以降 : WAS8.5) の導入検証を行いました。IBM i 7.3 環境で Web ベースのアプリケーションを使ったソリューションなどを想定して導入手順書を作成しました。

WAS8.5 の導入勉強会開催ならびに、この機能の前提で動作する「REPORT EYE」の稼働検証も行いました。

※「REPORT EYE」は、IBM i 上で動作して DB2/400 のデータ照会・更新・分析が可能なツールのことです。

背景・課題

WAS8.5 の導入手順書は現在(2016/9 月時点)、IBM i 7.2 までの導入手順書は公開されておりますが、IBM i 7.3 での WAS8.5 の資料が無く、従来の導入手順書の通りでは正常に導入ができないことがわかりました。 IBM STSC に問い合わせても解決しませんでした。試行錯誤して回避方法を見つけ、正常に導入できる方法がわかりました。

CAMSS センターでの検証概要

使用したハード/ソフト

Power720(E4D) , IBM i 7.3 , WAS8.5.5.9 (IBM i 7.3 の前提リリース)

WAS8.5 導入に必要な Installation Manager (以降 : IM) と IBM i 7.3 環境での前提リリースの 8.5.5.9 を ESS サイトよりダウンロードして準備します。

以下 URL (IBM i 7.2 までの導入資料) も参照しつつ導入を進めます。

http://public.dhe.ibm.com/software/dw/jp/websphere/was/was85fori_install/was_v85i_01.pdf

- Power720 に IBM i 7.3 環境を作成します。
- 5250 画面の Qsh より、コマンドベースで IM を導入します。
- WAS8.5 の失敗導入事例 :
 - ① 5250 画面の Qsh より、コマンドベースで WAS8.5 の導入を行います。
 - ② IBM Web Administrator for i (以降 : IBM i タスク) を起動します。

③ IBM i タスク上に構成項目が見つからない為、WAS 構成が出来ません。(画面参照)

※正常な場合、以下画面内に「V8.5.5.9 EXPRESS」が表示されますが、失敗すると表示されません。



●WAS8.5 の成功導入事例 :

① IBM i タスクを起動します。

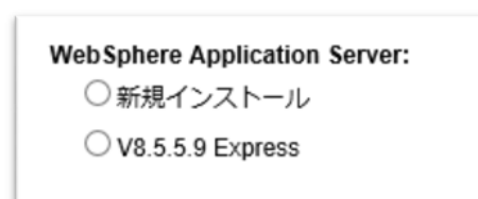
② IBM i タスクより、WAS8.5 の導入を行ないます。

※「管理」タブ内で「インストール済み環境」から「インストール」ボタンを押す。



③ 導入後、上記画面のように表示され、問題なく WAS 構成が出来ました。

※正常な場合、以下画面のように「V8.5.5.9 EXPRESS」が表示されます。



●WAS8.5 導入構成後、グループ PTF : SF99581 の導入および、適用処理を行います。

●適用後、アプリケーション・サーバーが起動します。

●WAS のサンプル・アプリケーション(snoop)の稼働確認をします。

導入時の問題など、解決策を見出したながらご支援。

お客様提案前に問題を解決できることで、安心して提案できる状態にできることも CAMSS センター利用のメリットです。

パートナーさまの声

「IBM i 7.3 環境に WAS8.5 導入を実施して、問題を早期に発見して対応できました。」

「自分たちだけでは解決できなかった問題を、単に CAMSS センターのテスト環境だけでなくイグアスのエンジニアの支援によって試行錯誤をし、解決に至ることができた。」